

松本「旧開智学校」国宝に

擬洋風校舎「教育の黎明象徴」

近代学校建築で初

国の文化審議会（佐藤信会長）は17日、明治期に建てられた松本市開智2の重要文化財「旧開智学校校舎」を新たに国宝に指定するよう柴山昌彦文部科学相に答申した。明治以降の学校建築の国宝指定は初めて。和風の伝統技術を用いて洋風に仕上げた建築が特徴で、「近代教育の黎明を象徴する最初期の擬洋風学校建築として、深い文化的意義を有している」と評価された。近く答申通り指定され、県内では10件目の国宝となる。

【焦点3面、関連記事2・35面、地域面中信に】

文化審議会答申

てもかなり先進的」（文化庁文化財第2課）と評価された。旧開智学校校舎の国宝指定答申は、創建140周年に合わせた2016年からの調査が決め手の一つ。大工の立石が東京や神奈川の洋風建築を見学した際の帳面や、扉のデザインを検討したとみられるスケッチなどから、設計過程や当時の建築事情が分かるという。

旧開智学校は当初、「筑摩県学」として旧松本藩の菩提寺だった女鳥羽川沿いの全友院（松本市中央1）に置かれた。全友院は同藩の廃仏毀釈で廃寺になり、校舎は跡地に建てられた。PTAなどの活動に後押しされ、1961年に重要文化財に。63年まで校舎として使われた後、現在地に移され、65年から博物館として公開されている。



国宝指定が答申された「旧開智学校校舎」の正面側。中央に八角形の塔屋を載せ、近代教育初期を象徴する擬洋風建築として評価された＝17日、松本市開智2

県内10件目

県内で新たな国宝指定は2014年の茅野市の縄文土偶（通称「仮面の女神」）以来。県内の建造物が国宝に指定されるのは1953（昭和28）年の善光寺本堂（長野市）、仁科神明宮（大田市）、大法寺三重塔（小県郡青木村）以来で、松本市では52年の松本城天守に次いで2件目。旧開智学校校舎は1876

（明治9）年の建築で、木造2階建て建築面積514平方メートルの大工・立石清重（1829～94年）が開成学校（東大の前身）などを参考に設計したとされる。

正面中央に八角形の塔屋を載せ、西洋風の趣がある一方、唐破風屋根や灰色のしつこい擬似的に石積み表現するなど日本の伝統技術やデザインを組み合わせた。当時としては珍しく、学級ごとの教室や広い講堂を備えている。

県内には近代教育、信州教育のシンボルの存在として、1年早く建築された重要文化財「旧中込学校校舎」（佐久市）なども残るが、旧開智学校校舎は「当時の他の学校と比べ

県内の国宝

■建造物

- 松本城天守（松本市）
- 安楽寺八角三重塔（上田市）
- 善光寺本堂（長野市）
- 仁科神明宮（大田市）
- 大法寺三重塔（小県郡青木村）
- 旧開智学校校舎（松本市・近く正式指定）

■考古資料

- 土偶「縄文のビーナス」
- 土偶「仮面の女神」（ともに茅野市）

■工芸品

- 楽焼白片身変茶碗 銘不二山（諏訪市）

■絵画

- 紙本墨画寒山図（諏訪市）

中心市街地 松本城に続き「旧開智学校」指定へ

国宝2件松本 期待と緊張感

17日の文化審議会答申で国宝指定が固まった重要文化財「旧開智学校校舎」（松本市開智2）。地元松本市は県内有数の観光地でもある国宝松本城を抱えており、今後は、二つの国宝に訪れる観光客などの受け入れ態勢を整えることが急務だ。創建から140年余りがたつ校舎を適切に維持管理し、近代教育や信州教育、「学都」の象徴的存在として次世代へと受け継いでいく重責も担うことになる。

（青木信之、加賀丈晴、木暮有紀子）

案内ガイド高齢化／渋滞と駐車場不足

観光客増へ対応急務



「校舎に常駐するのが望ましいのは分かるが、早期の態勢構築は難しい」。旧開智学校校舎の見学者を予約制で案内しているボランティアガイド団体「旧開智学校案内班」の花岡芳昭会長（77）は17日、国宝指定の答申を歓迎する一方、緊張感にもじませた。観光客の増加を見越した市から早速、受け入れ態勢の強化を待ち掛けられたからだ。

案内班メンバーのうち、実際にガイドとして活動しているのは現在9人。ガイドするのは10人以上のグループで、月3〜6件の予約が入るといふ。校舎を見て回るだけでは

分らない逸話を織り交せて見学者を引きつけているが、メンバーは平均70歳ほどと高齢化し、英語を話せる人もいない。

近年は新たなメンバーの確保にも苦慮している状態。今のままでは、校舎に常に待機し、予約なしで訪れる個人や少人数グループまでガイドするのは困難だといふ。旧開智学校校舎を所管する

【1面参照】

焦点

松本市立博物館は、ガイドのとバス12台。北側を管理する松本城管理事務所によると、冬場以外は平日でも7割程度が埋まり、週末はほぼ満車状態になる。

周辺には小規模な民間駐車場も点在しているが、十分とは言えない。同事務所の担当者は「周辺に駐車場を設置できる土地がない」と困り顔だ。

一方、交通渋滞が課題となっている松本市中心部では、国宝が二つになることで混雑や駐車場不足に拍車がかかるとの懸念がある。

旧開智学校や松本城周辺では、城の南北に1方所ずつある大型市営駐車場の利用者が多い。ただ、収容能力は北側が一般車110台とバス15台、南側が一般車約250台

校舎完成140年余 耐震化に試算2億円

老朽化 重い財政負担

完成から140年余。旧開智学校校舎に入って歩くと時折、ぎしりと鳴る。

「外観は洋風で素晴らしい。内部は小学校時代を思い返せて懐かしい。でも人が多く来たら傷みが進むのでは」。

1961（昭和36）年に重要文化財に指定された旧開智学校校舎は、修繕などの費用を国と市が折半してきた。その仕組みは国宝になっても変わらない。校舎の価値を守り、歴史的な財産として受け継ぐために、松本市は今まで以上に財政負担が必要になると見込まれている。

市は7月までに、教育部や商工観光部などの関係部局で校舎の保存活用などの検討組織を設ける方針。市立博物館の木下守館長は「年度内に保存活用計画を定め、耐震補強工事を含めた修繕計画を作りたい」と話す。

周辺環境の整備進めたい

菅谷昭松本市長の話 「学都松本」の象徴である旧開智学校校舎が国の宝として認められたことは大変喜ばしい。市民や関係者によって多くの資料が守り伝えられてきたことも価値を高めた要因の一つ。校舎の適切な保存管理の計画を定め、市民や観光客により親しんでいただけるよう周辺環境の整備を進めたい。校舎の価値を発信する活用事業の実施も検討していく。

国宝となる旧開智学校校舎の塔屋（手前）。500ほど離れた場所に国宝松本城天守（左奥）がある＝17日（管理者の許可を得て小型無人機で撮影）



が、現在も10万人前後。国宝に指定されることでこれまで増えるかは不明だが、近年増えている外国人客への対応も充実が求められる。パンフレットは、現在の日本語版と英語版以外に広げる必要もありそうだ。

市は旧開智学校校舎の維持管理費などとして、19年度に2482万円を計上。これに対し、観覧料やグッズ販売などの収入は毎年度3300万〜3500万円あり、健全運営を実現している。ただ、木下館長は「国宝に指定されれば支出の増加は避けられない。収入が見込めるグッズのデザイン変更など、できることから早期に対応したい」としている。

「松本の学びの源流」に光

旧開智学校校舎 国宝指定へ



国宝指定が決まった松本市開智2の重要文化財「旧開智学校校舎」は、地元の大工・立石清重（18829〜94

「校舎に関わり、大切にしていた人たちの思いが実った」と、文化審議会答申の決め手になった調査研究報告書を編集した同校舎学芸員、遠藤正教さん(35)。市立博物館長の木下守さん(56)は、重要文化財から「格上げ」になるのは「学芸員らが立石家の資料などを調べて価値を高めたからだ」と胸を張った。

調査には建築界、教育界の専門家も加わった。信州大学術研究院工学系准教授（建築史）の梅千野成央さん39は研究室の学生13人とともに、立石の残したデザイン画や設計図など約1500点を調べた。擬洋風建築のプロセスを解き明かす端緒にもなったという「歴史的な建物やその文化を残し伝える研究者として、校舎が文化財の最高峰と評価されたのはうれしい」と声を弾ませた。

旧開智学校は1872(明治5)年の学制公布の翌年に「筑摩県立」として開校。当時の筑摩県権令現在の知事の永山盛輝(18826、1902年)も自ら資金集めに回った。阿部守一知事は「近代教育の

年)の設計で、信州教育の原点と言える。指定を目指し、2016年度から2年にわたって調査を進めた関係者は喜びをかみしめ、同校の歴史や校舎の保存に光が当たることに期待した。

【1面参照】

調査や保存「思い実った」

黎明を象徴する建造物として全国で初めて国宝に指定されることを大変誇りに思う」とコメントした。調査に携わった上伊那郡辰野町出身で日本大文理学部教授(教育学)の小野雅章さん(59)「諏訪郡原村は「実践的な教育のため、ピアノや体育館を導入するなど先駆的。政府や県が目指す教育のモデルのようだった」と評価。「開智学校の教育資料は研究者に注目されてきた」と強調する。

「一市一校制」だった明治から昭和初期には、全体で約8千人の児童が在籍したという。幼稚園や女学校、盲学校などのほか、図書館や博物館が設けられ、成績に応じた学級編成や体の弱い児童の林間保育も生まれた。

現在の市立博物館、県松本盲学校などは、元をたどると旧開智学校に行き着くという。開智小学校(旧開智学校)の校長も務めた市教育長、赤羽郁夫さん(67)は「松本の全ての学びの源流。どんな子にも教育を受けさせたいという熱い思いを引き継いでいきたい」と話した。

旧開智学校校舎の内部。校訓「愛正剛」と記した額などが飾られている17日、松本市開智2

共通版

ちひろ美術館で花フェスタ企画展 … 7
 危険業務従事者叙勲 地元から15人 … 20
 御嶽海が快勝 大相撲夏場所6日目 … 22
 松本市の20代男性 はしかに感染 … 22

市民タイムス

発行所/市民タイムス:本社/〒390-8539松本市大字島立800番地
 TEL(0263) 受付47-7777 編集47-7774 広告48-2000 販売47-4755 ©市民タイムス2019年
 FAX(0263) 受付48-2422 編集47-1654 広告47-8585 販売48-2422 支社/安曇野・塩尻 支局/長野・木曾

フリーローン プラチナリベロ
 FREE LOAN Webで完結!!
 Web完結型
 長野銀行 <http://www.naganobank.co.jp/>

旧開智学校 国宝に

近代学校建築で初

文化審答申 松本お城に次ぎ2件目



国宝に指定される旧開智学校校舎

文化庁の文化審議会は17日、擬洋風の意匠をまとった先駆的な学校建築で知られる重要文化財「旧開智学校校舎」(松本市開智2)を国宝に指定するよう柴山昌彦文部科学相に答申した。近代学校建築として初めての国宝指定となる。県内の建造物としては昭和28(1953)年の善光寺本堂(長野市)など以来66年ぶりの国宝指定で、松本市内では松本城天守に次いで2件目の国宝となる。(石尾 出)

旧開智学校校舎は明治9(1876)年の建築で、木造2階建てになる。建築面積は513.58平方メートル。見積り書など建築関係資料の文書56点と図面7枚も国宝指定の対象に含まれる。今後、官報告示をへて正式に国宝に指定される。

旧開智学校校舎は当初、現在の松本市中央1の女鳥羽川沿いであり、昭和38(1963)年まで現役校舎として使われ、昭和39年に現在地へ移築された。翌年からは博物館施設として公開保存され、明治時代の建築や教育の歴史を多くの見学者に伝えている。

旧開智学校が国宝に 関連記事
 学校沿革、県内の国宝指定状況… 2面
 優れた擬洋風建築～写真グラフ… 21面
 上皇ご夫妻も平成25年にご見学… 22面
 国宝が二つ 観光面で高まる期待… 22面
 「自慢の校舎」卒業生ら喜びの声… 23面



菅谷昭松本市長が都松本の象徴である校舎が国の宝として認められたことは大変喜ばしい。財政的に市民が認めてくれるハード・ソフトの両面で保存活用を力を入れてきた。市民の皆さんと喜びたい。今後は校舎の適切な保存管理の計画を定めることにも、市民や観光客により親しむ環境を整備も進めていきたい。

旧開智学校校舎沿革

明治6(1873)年	廃寺を仮校舎として南深志町(現松本市中央1)に開校
明治9(1876)年 昭和22(1947)年	現存する校舎が竣工 教育制度改革により松本市立開智小学校へ校名を変更
昭和36(1961)年 昭和38(1963)年	国重要文化財に指定 現役校舎としての役目を終了
昭和39(1964)年	現在地(松本市開智2)に移築復元される
昭和40(1965)年	教育博物館として公開開始
昭和62(1987)年	愛媛県宇和町(現西予市)の旧開明学校と姉妹館提携
平成17(2009)年	静岡県松崎町の旧岩科学校と姉妹館提携
令和元(2019)年	国宝に指定

築143年近代教育の象徴

旧開智学校は明治6(1873)年、筑摩県筑摩郡南深志町一番町(現在の松本市中央1)の女鳥羽川沿いにあった廃寺を仮校舎として開校した。松本の近代化をけん引した民権家・窪田畔夫らが設

全国227件目の国宝建造物

国宝の指定基準は「重要文化財のうち極めて優秀で、かつ、文化的意義の特に深いもの」となっており、県内では現在9件ある。「仮面の女神」の愛称で知られる土偶(茅野)が5件、美術工芸品が4件で、松本市の松本城天守は昭和27年に指定された。旧開智学校校舎の国宝指定は、全国の建造物で227件目となる。

国宝に指定されている県内の建造物・美術工芸品

- | | | |
|---------|--------------|------------|
| 【建造物】 | 松本市
松本城天守 | 松本市
長野市 |
| | 善光寺本堂 | 大町市
上田市 |
| | 仁科神明宮 | 茅野市
茅野市 |
| | 安楽寺八角三重塔 | 諏訪市
茅野市 |
| | 大法寺三重塔 | 諏訪市 |
| 【美術工芸品】 | 楽焼白片身変茶碗 | |
| | 土偶(縄文のビーナス) | |
| | 土偶(仮面の女神) | |
| | 紙本墨画寒山図 | |

旧開智学校 国宝に

松本市役所 祝いの懸垂幕



松本市は17日、市役所本庁舎正面玄関の外壁に、旧開智学校校舎が国宝に指定されることを祝う懸垂幕を掲げた。懸垂幕は幅約11メートル、長さ約11メートルで、白地に赤色と黒色の文字で「祝 国宝指定 旧開智学校校舎」と書かれている。所管する市立博物館

市役所本庁舎に掲げられた懸垂幕



移築復元前に校舎があった女鳥羽川沿いには跡地を示す碑が立っている(中央大手橋の南側)

みすず野

八角塔屋を挟んで向かって右に窓が5列、左に6列。このほうが右端の入り口近くから斜めに仰いだ外観の見栄えがいい。と言う人もいるそうだ。重文開智が国宝に指定される◆設計施工を担った東町の大工棟梁・立石清重がもしも西洋建築の専門家なら左右対称の校舎になっていたかもしれない。独学だった。維新から間もない東京や山梨に徒歩で出向き洋風の建物をスケッチした。文政12(1829)年生まれだから脂の乗った40代半ば。道中の出費帳に「牛肉」の字も見える◆車寄せ2階バルコニーの上で天使が異彩を放つ。他に例を見ない意匠といい、当時の「東京日々新聞」の題字とそっくり。校舎内の展示に教わった。棟梁の目に天使は新しい時代のシンボルと映ったか。竜の彫刻や唐破風の対照が和洋折衷の特徴を際立たせる◆天使は明治30年ごろ姿を消し、昭和38年からの移築修理で復元された。重文開智の学芸員・遠藤正教さん(35)は「西洋建築に触れたことに加え、江戸期に松本城の修理申請にも携わった確かな技術から独創的な建物が生まれた」と話す。清重でなければ造れなかった。松本の誇りが国の宝になる。

の木下守館長(56)は「松本の文明開化の象徴で、当時の市の独自性」に思いをいたす機会となる。多くの市民の皆さんに知ってほしい」と話す。国の官報告示で正式指定されるまで当面の間、掲出される。(瀬川智子)

近代学校建築初 評価は大変誇り

阿部知事がコメント 阿部守一知事は17日、松本市の旧開智学校校舎が国宝に指定されることについて「近代教育の黎明を象徴する建造物として評価され、近代の学校建築として全国で初めて国宝に指定されることを大変誇りに思う」とコメントを発表した。